



LDAPディレクトリからのユーザのインポート

- [LDAP 同期の概要 \(1 ページ\)](#)
- [LDAP 同期の前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [LDAP 同期の設定タスク フロー \(4 ページ\)](#)

LDAP 同期の概要

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の同期は、システムのエンドユーザのプロビジョニングと設定を支援します。LDAP の同期中、システムは外部 LDAP ディレクトリから Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザのリストと関連するユーザデータをインポートします。インポートしている間に、エンドユーザを設定することもできます。



- (注) Unified Communication Manager は、LDAPS (SSL を使用した LDAP) をサポートしますが、StartTLS を使用した LDAP はサポートしていません。LDAP サーバ証明書を Unified Communication Manager に Tomcat-Trust 証明書としてアップロードします。

サポートされている LDAP ディレクトリの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* と *IM and Presence Service* の互換性マトリクスを参照してください。

LDAP 同期では、以下の機能がアドバタイズされます。

- **エンドユーザのインポート** : LDAP 同期を使用して、システムの初期設定時にユーザー一覧を会社の LDAP ディレクトリから Unified Communication Manager のデータベースにインポートできます。機能グループテンプレート、ユーザプロファイル、サービスプロファイル、ユニバーサルデバイス、回線テンプレートなどの設定項目が設定されている場合は、設定をユーザに適用することができ、また、同期プロセス中に設定したディレクトリ番号とディレクトリ Uri を割り当てることができます。LDAP 同期プロセスは、ユーザーリストとユーザー固有のデータをインポートし、設定した構成テンプレートを適用します。



(注) 初期同期が実行された以降は、LDAP同期を編集することはできません。

- **スケジュールされた更新**：Unified Communication Manager をスケジュールされた間隔で複数のLDAPディレクトリと同期するように設定できます。これによって確実にデータベースが定期的に更新され、すべてのユーザデータを最新に保ちます。
- **エンドユーザの認証**：LDAP同期を使用して、システムがCisco Unified Communication Manager データベースではなく、LDAPディレクトリに対してエンドユーザパスワードを認証するように設定できます。LDAP認証によって、企業は、すべての企業内アプリケーションに対応する単一のパスワードをエンドユーザに割り当てることができます。この機能は、PIN またはアプリケーションユーザパスワードには適用されません。
- **Cisco モバイルおよびリモートアクセスクライアントおよびエンドポイントのディレクトリサーバユーザ検索**：企業ファイアウォールの外部で操作している場合でも、社内ディレクトリサーバを検索できます。この機能を有効にすると、ユーザデータサービス (UDS) がプロキシとして機能し、Unified Communication Manager データベースにユーザ検索要求を送信する代わりに、それを社内ディレクトリに送信します。

エンドユーザ用 LDAP 認証

LDAP同期を使用して、システムがCisco Unified Communications Manager データベースではなく、LDAPディレクトリに対してエンドユーザパスワードを認証するように設定できます。LDAP認証によって、企業は、すべての企業内アプリケーションに対応する単一のパスワードをエンドユーザに割り当てることができます。この機能は、PIN またはアプリケーションユーザパスワードには適用されません。

Cisco モバイルおよびリモート アクセス クライアントおよびエンドポイント向けディレクトリサーバユーザ検索

以前のリリースでは、Cisco モバイルおよびリモートアクセスクライアント（たとえば、Cisco Jabber）またはエンドポイント（たとえば、Cisco DX 80 電話）を使用しているユーザが企業ファイアウォールの外部でユーザ検索を実行した場合、結果はCisco Unified Communications Managerに保存されたユーザアカウントに基づいていました。データベースには、ローカルで設定されたか、または社内ディレクトリから同期されたユーザアカウントも含まれています。

このリリースでは、Cisco モバイルおよびリモートアクセスクライアントとエンドポイントは、企業ファイアウォールの外部で動作している場合でも、社内ディレクトリサーバを検索できます。この機能を有効にすると、ユーザデータサービス (UDS) がプロキシとして機能し、Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザ検索要求を送信する代わりに、それを社内ディレクトリに送信します。

この機能を使用して、次の結果を実現できます。

- 地理的な場所にかかわらず同じユーザ検索結果を配信: 企業ファイアウォール外に接続されている場合でも、モバイルおよびリモートアクセスクライアントとエンドポイントは、社内ディレクトリを使用してユーザ検索を実行できます。
- Cisco Unified Communications Manager データベースに設定されているユーザアカウントの数を減らす: モバイルクライアントが社内ディレクトリ内のユーザを検索できるようになりました。以前のリリースでは、ユーザの検索結果はデータベースに設定されているユーザに基づいています。ユーザの検索に使用するデータベースに対しては、管理者がユーザアカウントを設定または同期する必要がなくなりました。管理者は、クラスタによって提供されているユーザアカウントのみを設定する必要があります。データベース内のユーザアカウントの総数を減らすと、ソフトウェアアップグレードの時間枠が短縮され、データベースの全体的なパフォーマンスが向上します。

この機能を構成するには、**LDAP検索構成ウィンドウ**で**エンタープライズディレクトリサーバー**のユーザ検索を有効にし、LDAPディレクトリサーバーの詳細を構成する必要があります。詳細については、「[エンタープライズディレクトリ ユーザ検索の設定 \(9 ページ\)](#)」の手順を参照してください。

LDAP 同期の前提条件

前提タスク

LDAP ディレクトリからエンドユーザをインポートする前に、次のタスクを実行します。

- ユーザアクセスを設定します。ユーザに割り当てるアクセス制御グループを決定します。ほとんどの導入環境では、デフォルトのグループで十分です。ロールとグループをカスタマイズする必要がある場合は、アドミニストレーションガイドの「ユーザアクセスの管理」の章を参照してください。
- 新しくプロビジョニングされたユーザーにデフォルトで適用されるクレデンシャルポリシーに、デフォルトのクレデンシャルを設定します。
- LDAPディレクトリからユーザを同期する場合は、機能グループテンプレートが設定されていることを確認してください。このテンプレートには、ユーザプロファイル、サービスプロファイル、ユーザの電話と電話の内線に割り当てるユニバーサル回線テンプレートおよびユニバーサル デバイス テンプレートの設定が含まれます。



(注) システムにデータを同期するユーザについては、Active Directory サーバでの電子メール ID フィールドが一意的なエントリであるか空白であることを確認してください。

LDAP 同期の設定タスク フロー

外部 LDAP ディレクトリからユーザリストをプルし、Unified Communication Manager のデータベースにインポートするには、以下のタスクを使用します。



- (注) LDAP ディレクトリをすでに一度同期している場合、外部 LDAP ディレクトリから新しい項目を同期することはできませんが、Unified Communication Manager 内の新しい設定を LDAP ディレクトリ同期に追加することはできません。この場合は、一括管理ツールを使用して、ユーザの更新やユーザの挿入などのメニューを使用できます。『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco DirSync サービスの有効化 (5 ページ)	Cisco Unified Serviceability にログインし、Cisco DirSync サービスを有効にします。
ステップ 2	LDAP ディレクトリ同期の有効化 (5 ページ)	Unified Communication Manager の LDAP ディレクトリ同期を有効化します。
ステップ 3	LDAP フィルタの作成 (6 ページ)	(省略可) Unified Communication Manager に社内 LDAP ディレクトリからユーザのサブセットだけを同期するには、LDAP フィルタを作成します。
ステップ 4	LDAP ディレクトリの同期の設定 (7 ページ)	アクセス制御グループ、機能グループのテンプレートとプライマリ エクステンションのフィールド設定、LDAP サーバのロケーション、同期スケジュール、および割り当てなどの LDAP ディレクトリ同期を設定します。
ステップ 5	エンタープライズ ディレクトリ ユーザ検索の設定 (9 ページ)	(省略可) エンタープライズ ディレクトリ サーバ ユーザを検索するシステムを設定します。システムの電話機とクライアントをデータベースの代わりにエンタープライズ ディレクトリ サーバに対してユーザの検索を実行するように設定するには、次の手順に従います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	LDAP 認証の設定 (11 ページ)	(省略可) エンドユーザのパスワード認証に LDAP ディレクトリを使用するには、LDAP 認証を設定します。
ステップ 7	LDAP アグリーメントサービスパラメータのカスタマイズ (12 ページ)	(省略可) 任意指定の [LDAP 同期 (LDAP Synchronization)] サービスパラメータを設定します。ほとんどの導入の場合、デフォルト値のままでも問題ありません。

Cisco DirSync サービスの有効化

Cisco Unified Serviceability で Cisco DirSync サービスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。社内の LDAP ディレクトリからエンドユーザの設定を同期するには、このサービスをアクティブ化する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [ディレクトリサービス (Directory Services)] の下で、[Cisco DirSync] ラジオボタンをクリックします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP ディレクトリ同期の有効化

エンドユーザの設定を社内 LDAP ディレクトリから同期させるには、以下の手順で Unified Communication Manager を設定します。



- (注) LDAP ディレクトリをすでに一度同期している場合、外部 LDAP ディレクトリから新しい項目を同期することはできますが、Unified Communications Manager 内の新しい設定を LDAP ディレクトリ同期に追加することはできません。また、機能グループテンプレートやユーザプロファイルなどの基になる構成アイテムの編集を追加することもできません。すでに 1 回の LDAP 同期を完了しており、別の設定でユーザを追加する場合は、ユーザの更新やユーザの挿入などの一括管理メニューを使用できます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択します。
 - ステップ 2 Unified Communications Manager で LDAP ディレクトリからユーザをインポートするには、[LDAPサーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3 [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウンリストから、使用する LDAP ディレクトリサーバの種類を選択します。
 - ステップ 4 [ユーザ IDのLDAP属性 (LDAP Attribute for User ID)] ドロップダウン リストで、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [ユーザID (User ID)] フィールドに関して、Unified Communications Manager で同期する社内 LDAP ディレクトリから属性を選択します。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

LDAP フィルタの作成

LDAP フィルタを作成することで、LDAP 同期を LDAP ディレクトリからのユーザのサブセットのみに制限することができます。LDAP フィルタを LDAP ディレクトリに適用する場合、Unified Communications Manager は、フィルタに一致するユーザのみを LDAP ディレクトリからインポートします。



-
- (注) LDAP フィルタを設定する場合は、RFC4515 に指定されている LDAP 検索フィルタ標準に準拠する必要があります。
-

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP(LDAP)] > [LDAP フィルタ (LDAP Filter)] を選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP フィルタを作成します。
 - ステップ 3 [フィルタ名 (Filter Name)] テキスト ボックスに、LDAP フィルタの名前を入力します。
 - ステップ 4 [フィルタ (Filter)] テキスト ボックスに、フィルタを入力します。フィルタは、UTF-8 で最大 1024 文字まで入力できます。また、丸カッコ () で囲みます。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

LDAP ディレクトリの同期の設定

LDAP ディレクトリと同期するように Unified Communications Manager を設定するには、この手順を使用します。LDAP ディレクトリの同期により、エンドユーザのデータを外部の LDAP ディレクトリから Unified Communication Manager データベースにインポートして、エンドユーザの設定ウィンドウに表示することができます。ユニバーサル回線とデバイステンプレートを使用する機能グループテンプレートがセットアップされている場合は、新しくプロビジョニングされるユーザとその内線番号に自動的に設定を割り当てることができます。



ヒント アクセス制御グループまたは機能グループテンプレートを割り当てる場合は、LDAP フィルタを使用して、インポートを同じ設定要件のユーザグループに限定できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[System (システム)] > [LDAP] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存の LDAP ディレクトリを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP ディレクトリを作成します。
- ステップ 3** [LDAP ディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウで、次のように入力します。
- a) [LDAP 設定名 (LDAP Configuration Name)] フィールドで、LDAP ディレクトリに一意の名前を割り当てます。
 - b) [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリ サーバにアクセスできるユーザ ID を入力します。
 - c) パスワードの詳細を入力し、確認します。
 - d) [LDAP ユーザ検索スペース (LDAP User Search Space)] フィールドに、検索スペースの詳細を入力します。
 - e) [ユーザ同期用の LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Users Synchronize)] フィールドで、[ユーザのみ (Users Only)] または [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
 - f) (省略可) 特定のプロファイルに適合するユーザのサブセットのみにインポートを限定する場合は、[グループ用 LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)] ドロップダウンリストから LDAP フィルタを選択します。
- ステップ 4** [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] フィールドに、外部 LDAP ディレクトリとデータ同期を行うために Unified Communication Manager が使用するスケジュールを作成します。
- ステップ 5** [同期対象の標準ユーザ フィールド (Standard User Fields To Be Synchronized)] セクションを記入します。各エンドユーザのフィールドで、それぞれ LDAP 属性を選択します。同期プロセス

が LDAP 属性の値を Unified Communication Manager のエンドユーザ フィールドに割り当てます。

- ステップ 6** URIダイヤリングを展開する場合は、ユーザのプライマリディレクトリURIアドレスに使用されるLDAP属性が割り当てられていることを確認してください。
- ステップ 7** [同期対象のカスタムユーザフィールド (Custom User Fields To Be Synchronized)] セクションで、必要な LDAP 属性を持つカスタムユーザフィールド名を入力します。
- ステップ 8** インポートしたエンドユーザを、インポートしたすべてのエンドユーザに共通するアクセス制御グループに割り当てるには、次の手順を実行します。
- [アクセス制御グループに追加 (Add to Access Control Group)] をクリックします。
 - ポップアップ ウィンドウで、インポートされたエンドユーザに割り当てる各アクセス制御グループごとに、対応するチェックボックスをオンにします。
 - [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- ステップ 9** 機能グループ テンプレートを割り当てる場合は、[機能グループテンプレート (Feature Group Template)] ドロップダウン リストからテンプレートを選択します。
- (注) エンドユーザは、そのユーザが存在しない初回のみ、割り当てられた機能グループ テンプレートと同期されます。既存の [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] が変更され、関連付けられた LDAP の完全同期が実行される場合、変更点は更新されません。
- ステップ 10** インポートされた電話番号にマスクを適用して、プライマリ内線番号を割り当てるには、次の手順を実行します。
- [挿入されたユーザの新規回線を作成するために、同期された電話番号にマスクを適用する (Apply mask to synced telephone numbers to create a new line for inserted users)] チェックボックスをオンにします。
 - [マスク (Mask)] を入力します。たとえば、インポートされた電話番号が 8889945 である場合、11XX のマスクによって 1145 のプライマリ内線番号が作成されます。
- ステップ 11** 電話番号のプールからプライマリ内線番号を割り当てる場合は、次の手順を実行します。
- [同期された LDAP 電話番号に基づいて作成されなかった場合、プール リストから新しい回線を割り当て (Assign new line from the pool list if one was not created based on a synced LDAP telephone number)] チェック ボックスをオンにします。
 - [DN プールの開始 (DN Pool Start)] テキスト ボックスと [DN プールの終了 (DN Pool End)] テキスト ボックスに、プライマリ内線番号を選択する電話番号の範囲を入力します。
- ステップ 12** [LDAPサーバ情報 (LDAP Server Information)] セクションで、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 13** TLS を使用して LDAP サーバに対するセキュアな接続を作成する場合は、[TLSを使用 (Use TLS)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 14** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 15** LDAP 同期を完了させるには、[完全同期を今すぐ実行 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。それ以外の場合は、スケジュールされた同期を待つことができます。



(注) LDAP で削除されたユーザは、24 時間後に Unified Communications Manager から自動的に削除されます。また、削除されたユーザが次のいずれかのデバイスのモビリティユーザとして設定されている場合、それらの非アクティブデバイスも自動的に削除されます。

- リモート宛先プロファイル
- リモート接続先プロファイルテンプレート
- モバイルスマートクライアント
- CTI リモート デバイス
- Spark リモートデバイス
- Nokia S60
- Cisco Dual Mode for iPhone
- IMS 統合モバイル (ベーシック)
- キャリア統合モバイル
- Cisco Dual Mode for Android

エンタープライズ ディレクトリ ユーザ検索の設定

データベースではなくエンタープライズディレクトリ サーバに対してユーザ検索を実行するように、システムの電話機とクライアントを設定するには、次の手順を使用します。

始める前に

- LDAP ユーザ検索に選択するプライマリ、セカンダリ、および第 3 サーバが Unified Communication Manager のサブスクライバ ノードに到達可能なネットワークにあることを確認します。
- [システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択し、[LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウの [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウン リストから LDAP サーバのタイプを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 検索 (LDAP Search)] を選択します。
- ステップ 2** エンタープライズLDAPディレクトリ サーバを使用してユーザ検索を実行するには、[エンタープライズディレクトリ サーバのユーザ検索を有効にする (Enable user search to Enterprise Directory Server)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [LDAP 検索の設定 (LDAP Search Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。
フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ディレクトリサーバの UDS 検索のための LDAP 属性

次の表に、ユーザ検索をエンタープライズディレクトリサーバに入力可能にするオプションが有効になっているときに、UDSユーザ検索リクエストが使用するLDAP属性を示します。これらのタイプのディレクトリ要求に対しては、UDSはプロキシとして機能し、企業ディレクトリサーバに検索要求をリレーします。



(注) UDS ユーザの応答タグは、いずれかの LDAP 属性にマップできます。属性のマッピングは、**LDAPサーバタイプ**ドロップダウンリストから選択したオプションによって決定されます。システム > LDAP > LDAPシステム設定ウィンドウからこのドロップダウンリストにアクセスします。

UDS ユーザの応答タグ	LDAP 属性
userName	<ul style="list-style-type: none"> • samAccountName • uid
firstName	givenName
lastName	sn
middleName	<ul style="list-style-type: none"> • initials • middleName
nickName	nickName
displayName	displayName
phoneNumber	<ul style="list-style-type: none"> • telephonenumber • ipPhone
homeNumber	homephone
mobileNumber	mobile
email	mail
directoryUri	<ul style="list-style-type: none"> • msRTCSIP-primaryuseraddress • mail

UDS ユーザの応答タグ	LDAP 属性
department	<ul style="list-style-type: none"> • department • 部署番号
manager	manager
title	title
pager	pager

LDAP 認証の設定

LDAP 認証を有効にして、会社の LDAP ディレクトリに割り当てられているパスワードに対してエンドユーザのパスワードが認証されるようにするには、この手順を実行します。この設定は、エンドユーザのパスワードにのみ適用され、エンドユーザの PIN またはアプリケーションユーザのパスワードには適用されません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] を選択します。
- ステップ 2** [エンドユーザに LDAP 認証を使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] チェックボックスをオンにして、ユーザ認証に LDAP ディレクトリを使用します。
- ステップ 3** [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。
- ステップ 4** [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドに、LDAP マネージャのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)] フィールドに、検索条件を入力します。
- ステップ 6** [LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)] セクションで、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** TLS を使用して LDAP サーバに対するセキュアな接続を作成する場合は、[TLS を使用 (Use TLS)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ \(12 ページ\)](#)

LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ

LDAP アグリーメントのシステムレベルでの設定をカスタマイズする、任意指定のサービスパラメータを設定するには、この手順を実行します。これらのサービスパラメータを設定しない場合、Unified Communications Manager により、LDAP ディレクトリ統合のデフォルト設定が適用されます。パラメータの説明については、ユーザインターフェイスでパラメータ名をクリックしてください。

サービス パラメータを使用して次の設定をカスタマイズできます。

- [最大アグリーメント数 (Maximum Number of Agreements)] : デフォルト値は 20 です。
- [最大ホスト数 (Maximum Number of Hosts)] : デフォルト値は 3 です。
- [ホスト障害時の再試行の遅延 (秒) (Retry Delay On Host Failure (secs))] : ホスト障害のデフォルト値は 5 です。
- [ホストリスト障害時の再試行の遅延 (分) (Retry Delay On HotList failure (mins))] : ホストリスト障害のデフォルト値は 10 です。
- [LDAP接続のタイムアウト (秒) (LDAP Connection Timeouts (secs))] : デフォルト値は 5 です。
- [遅延同期の開始時間 (分) (Delayed Sync Start time (mins))] : デフォルト値は 5 です。
- [ユーザカスタマーマップの監査時間 (User Customer Map Audit Time)]

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco DirSync] を選択します。
- ステップ 4** Cisco DirSync サービスパラメータの値を設定します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP ディレクトリ サービス パラメータ

サービス パラメータ	説明
最大アグリーメント数	設定可能な LDAP ディレクトリの最大数。デフォルトの設定値は20です。
最大ホスト数	フェールオーバー用として設定できるLDAPホスト名の最大数を指定します。デフォルト値は 3 です。

サービス パラメータ	説明
ホスト障害再試行の遅延 (secs)	ホストで障害が発生した後、Cisco Unified Communications Manager が最初の LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行する前の遅延秒数です。デフォルト値は 5 です。
ホストリストの失敗再試行の遅延(mins)	ホストリストで障害が発生した後、Cisco Unified Communications Manager が設定された各 LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行する前の遅延分数です。デフォルトは 10 です。
LDAP Connection Timeout (secs)	Cisco Unified Communications Manager が LDAP 接続を確立できる秒数です。指定した時間内に接続を確立できない場合、LDAP サービスプロバイダーは接続試行を中止します。デフォルトは 5 です。
遅延同期の開始間隔(mins)	Cisco DirSync サービスの起動後に、Cisco Unified Communications Manager がディレクトリ同期プロセスを開始するまでの遅延分数です。デフォルトは 5 です。

LDAP 同期済みユーザをローカル ユーザに変換する

LDAP ディレクトリと Cisco Unified Communications Manager を同期すると、LDAP に同期されたエンドユーザについては、ローカルユーザに変換しないかぎり、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ内のフィールドは編集できません。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期ユーザのフィールドを編集するには、そのユーザをローカル ユーザに変換します。ただし、この変換を行うと、Cisco Unified Communications Manager を LDAP ディレクトリと同期したときにエンドユーザが更新されなくなります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[エンドユーザ (End Users)] > [エンドユーザ管理 (End User Management)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、エンドユーザを選択します。
- ステップ 3 [ローカル ユーザへの変換 (Convert to Local User)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4 [エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウでフィールドを更新します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

アクセス制御グループへの LDAP 同期ユーザの割り当て

LDAP と同期するユーザをアクセス制御グループに割り当てるには、次の手順を実行します。

始める前に

エンドユーザと外部 LDAP ディレクトリが同期されるように Cisco Unified Communication Manager を設定する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAPディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、設定した LDAP ディレクトリを選択します。
 - ステップ 3 [アクセス制御グループに追加 (Add to Access Control Group)] ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 この LDAP ディレクトリのエンドユーザに適用するアクセス制御グループを選択します。
 - ステップ 5 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 7 [完全同期を実施 (Perform Full Sync)] をクリックします。
Cisco Unified Communication Manager が外部 LDAP ディレクトリと同期し、同期したユーザが正しいアクセス制御グループに挿入されます。

(注) 同期したユーザは、アクセス制御グループを初めて追加した時にのみ、選択したアクセスグループに挿入されます。完全同期の実行後に LDAP に追加するグループは、同期したユーザに適用されません。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。